



ジャパントップブランドを めざして (下)

ゲスト/原 喜代志 (福島県JA会津よつば 代表理事組合長)

第36回ゲスト

福島県JA会津よつば代表理事組合長

原 喜代志



はら・きよし

1955年福島県生まれ。1976年会津高田町農業協同組合に入組。おもに信用・共済部門の業務にあたる。2008年会津みどり農業協同組合総務部長を経て、2011年常務理事。2016年に合併して誕生した会津よつば農業協同組合の常務理事を経て、2022年代表理事組合長に就任。福島県農業信用基金協会会長理事。

●インタビューとまとめ

三重大学名誉教授

京都大学学術情報メディアセンター研究員

石田正昭



いしだ・まさあき

1948年生まれ。東京大学大学院農学系研究科博士課程満期退学。農学博士。専門は地域農業論、協同組合論。元・日本協同組合学会会長。三重大学、龍谷大学の教授を経て、現職。近刊書に『JA女性組織の未来 躍動へのグランドデザイン』『いのち・地域を未来につなぐ これからの協同組合間連携』(ともに編著、家の光協会刊)。

* 前回の記事は[コチラ](#)から

ジャパントップブランドをめざして

J A会津よつばでは女性組織も青年組織も活発に活動している。たとえば女性組織はJ Aのオリジナルカレンダーづくり、青年組織は喜多方市の小学校農業科の田んぼの生き物調査に参加・参画している。そのほかに管内の企業・団体の広報誌での紹介、伝統の檜枝岐歌舞伎への協力、県外J Aとの相互交流などの活動が注目される。

■ センスが光るJ A広報活動

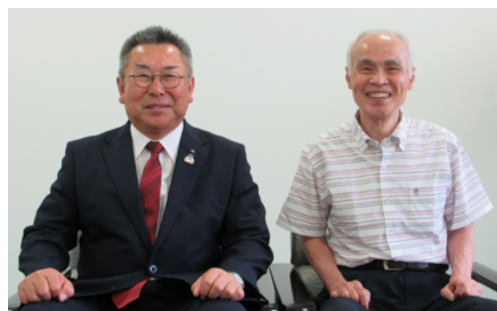
石田：J A会津よつばでは、女性部も、農青連（J A会津よつば青年連盟）も、活発に活動しています。

原：担当者が大忙しになるほど、熱心に活動してもらっています。ありがたいことです。家の光協会からのさまざまな情報も活用しています。

石田：たとえば、オリジナルカレンダー「作ってみたい ばあばの伝承料理レシピ」、女性部の全面的協力でできていますね。

原：わたしどものJ Aでは毎年オリジナルカレンダーを作製しています。以前はコンペをして印刷屋さんが提案したものを選んでいましたが、一昨年、ある印刷屋さんが農業高校など、管内の高校が研究した料理レシピを掲載したカレンダーを提案してきました。J Aとしてもこれは面白い、ということで採用しました。

そのカレンダーを見たからでしょう。女性部の方々から、地域の伝承料理を一冊の本にしたいという申し出がありました。ですが、多くの方々にみてもらうためには、一冊の本よりもカレンダーのほうがよかろうと、こちらから逆に提案



女性部の「ばあばの伝承料理教室」が好評。レシピを部員同士で共有している



J Aのオリジナルカレンダー。2024年版は女性部協議会が次世代への伝承料理をテーマに作製した



女性部との会議でカレンダーの企画内容を検討してきたと話す、総合企画部・星粒一部長

13名の方々に集まっていたいただき、掲載する12品目を一気に調理してもらい、広報担当者が掲載月の季節感を考えながら撮影していきました。その写真を印刷屋さんへ渡し、コンペ形式でJAらしいカレンダーを提案してもらいました。カレンダー機能だけではない斬新さや優れたデザイン性を考慮しながら決定しました。

石田：すばらしいカレンダーです。来年は農青連の方々に協力してもらってははどうでしょう。

原：そういう話もありますが、じつは高校生の料理カレンダーの評判がとてもよくて、もう一度高校生にやらせてもらえないかという保護者からの要望が出ています。JAとしても地域の方々の要望がたいせつですから、どうしようか、いま思案しているところです。

石田：話は飛びますが、広報誌『よつば』に毎月掲載されている「コメナルド画伯が行く！」という企画がとても面白い。訪問先の選定が優れていると思います。JAの広報誌ではとりあげないような企業・団体が選ばれています。センスのよさが光ります。

原：ありがとうございます。地域に根ざすJAなので、お付き合いもいろいろありまして、それを反映した形になっています。

JAにとって「食と農」はたいせつですが、それにはこだわらない訪問先を選んでいきます。毎月、4地区の担当者を集めて選定会議を開き、訪問先を決定していますが、総合事業を展開するというなかで、職員レベルでもいろいろな情報を持っているので、それを活用しています。

し、実現したものです。

石田：12か月だから、各地区、いろいろな伝承料理が紹介できますね。

原：そうです。4地区24支部ありますので、各地区3か月分(3品)を掲載するイメージでつくりました。

石田：それぞれの地区で撮影したのですか。

原：いいえ。女性部協議会の役員、



地域情報が満載の広報誌。2024年6月号でJA合併後100号を迎えた

たとえば、染織工房の「れんが」さん、ランドセルメーカーの「(株)羅羅屋」さんなど、さまざまな分野の企業・団体にご登場いただいています。訪問先のみなさんにもたいへん喜ばれています。

石田：そう、そこなんです。取材先からも、読者の農業者からも喜んでもらえるような地域情報だから面白いんです。広報誌を通じてJAのウイングの広さを伝えることが重要です。今後も続けてほしいと思います。

■ 一味違う農青連の活動

石田：農青連の活動がすばらしいです。JA東西しらかわの青年組織とどろんこバレーをやったり、管内の小学校で田んぼの生き物調査をやったり、JA福島県青年連盟のソフトボール大会で優勝したり、お揃いのポロシャツをつくったりなど、どれも目を見張るものがあります。伝統的に農青連の活動は活発なんですか。



田んぼの生き物調査ではJA青年連盟が活躍

原：支部によって多少の違いはありますが、おおむね活発に活動してもらっています。伝統的なものだと思います。昨日と一昨日、福島県、宮城県、山形県の青年組織から役員のみなさんがやってきて、熱塩小学校(喜多方市)で田んぼの生き物調査を行いました。わたしも夜の懇親会に参加しましたが、みなさんいい勉強になったと言っていました。

石田：ということは、県内はもとより他県からも注目されているわけですね。

原：そうです。喜多方市が農業教育特区の認定を受けて「喜多方市小学校農業科」を設置していて、そこに農青連が全面的に協力しています。日本農業賞の「特別部門 食の架け橋賞」大賞も受賞しました。もともとは合併前の熱塩加納村で行われていたのですが、合併後の喜多方市がそれを引き継ぎ、大きく発展させてきました。いまや参加校は市内全域に拡大しています。

石田：食農教育の一環として、青年組織と女性組織が協力して農産物の収穫・調理体験を行うというのはよくありますが、これほどの規模で田んぼの生き物調査を行うのはめずらしいですね。

原：農青連は4地区13支部で構成され、合計404名の盟友がいます。各支部に共通していることは、若手農業者は仲間づくりがしたいということです。ですから何をやるにしてもまとまりがいい。JAも事務局体制を整えていますので、動きやすいのだと思います。

石田：オリジナルのポロシャツをつくりましたね。AとJを組み合わせたロゴ



マークが印象的です。ロゴの下に「A I Z U Y O T S U B A」と記されていますが、これもロゴとのバランスがとれています。

原：ポロシャツではありません。Tシャツ、帽子もつくりました。目立つものをつくりたいと、役員自らがデザインしました。標準タイプのポロ

シャツは紺地に白のロゴが入っていますが、わたしだけはその逆のパターン、白地に紺のロゴが入ったものをプレゼントされました。うれしいですね。

石田：農青連に理事枠はありますか。

原：女性部に理事枠はありますが、農青連には理事枠はありません。しかし、その重要性はよく理解できますので、いずれかのタイミングで制度化していきたいと考えています。現役というわけではありませんが、OBの理事さんはたくさんおられます。

石田：農青連に限りませんが、実際に活発に活動している方々に理事になってもらうほうがいい。議論が活発化し、組織が活性化します。実際に活動しているからこそ、言いたいこともたくさんあるはずです。選ばれた理事が理事会の様子を仲間に伝え、そのことをみんなで議論し、出された意見を理事会に反映することもできます。

あえて言えば、伝統的な集落組織に依存したJAから、実際に活動している組合員組織に依存するJAに移行していかなければならない。これからのJAの課題だと思います。

■ 地域に根ざすJAだからこそ

石田：広報誌『よつば』に掲載されていますが、檜枝岐村で行われた「檜枝岐歌舞伎」でJA名を印刷したのぼり旗を寄贈しました。

原：そうです。檜枝岐歌舞伎は、南会津郡檜枝岐村で行われている村民による農村歌舞伎です。少なくとも270年以上の歴史があります。檜枝岐の舞台は国の指定重要有形民俗文化財、檜枝岐歌舞伎は福島県の指定重要無形民俗文化財に指定されています。5月と8月に2つの神社の奉納歌舞



神にささげる奉納歌舞伎として伝えられている檜枝岐歌舞伎 (写真提供/尾瀬檜枝岐温泉観光協会)

舞

伎が行われ、9月に「歌舞伎の夕べ」が開かれます。

檜枝岐歌舞伎、時間があればぜひお連れしたいですね。いちばんのメインは8月18日の鎮守神祭礼奉納歌舞伎で、今年はそこに管野啓二五連会長（J A福島さくら）といっしょにのぼり旗を寄贈しようと、いま準備しているところです。県内のほかのJ A組合長もみたことがないというので、いっしょに行きましょうと話合っています。

檜枝岐の舞台があって、舞台前の山側が石積みの観客席になっています。その山の上に2つの神社（愛宕神社、鎮守神社）があって、それぞれの神社に歌舞伎を奉納するというものです。

石田：家の光も取材に来てもらってはでしょうか。

原：いいですね。ぜひおいでください。ですが、来てもらっても泊まる場所はありません。県内の4組合長の宿泊については、すでに押さえています。それに追加するのはちょっとむずかしい。山のなかですから、宿泊施設が十分というわけにはいきません。

金融機関としてはJ A会津よつば檜枝岐支店があります。また、それとは別に経済事業だけを営む檜枝岐村農業協同組合があります。両組合は同じ建物に入っています。檜枝岐村農協はガソリンスタンド、生活店舗のほか、尾瀬への物資供給も行っています。春先になるとヘリコプターで尾瀬に物資を運んでいます。

石田：尾瀬の最前線基地なんですね。知りませんでした。

原：檜枝岐村は尾瀬の入り口に立地しています。J Aの金融店舗と檜枝岐村農協の生活店舗は、村の建てた共同施設に入っていて、村から間借りする形になっています。

石田：なくてはならない地域インフラですね。

原：そのとおりです。

石田：話は変わりますが、広報誌『よつば』に、J A山口県との相互交流、J Aよこすか葉山（神奈川県）との姉妹J A、という記事が出ていました。これについてはどうでしょうか。



J A山口県との交流にもつながっている農産物直売所「まんま〜じゃ」。充実した精米コーナーもある



原：いまは合併してJ A山口県になりましたが、もともとはJ Aあぶらんど萩と相互交流を行っていました。萩といえば長州ですね。その長州と会津が、戊辰戦争後150年を機に交流しましょうということで、2018(平成30)年に協定書を交わしました。

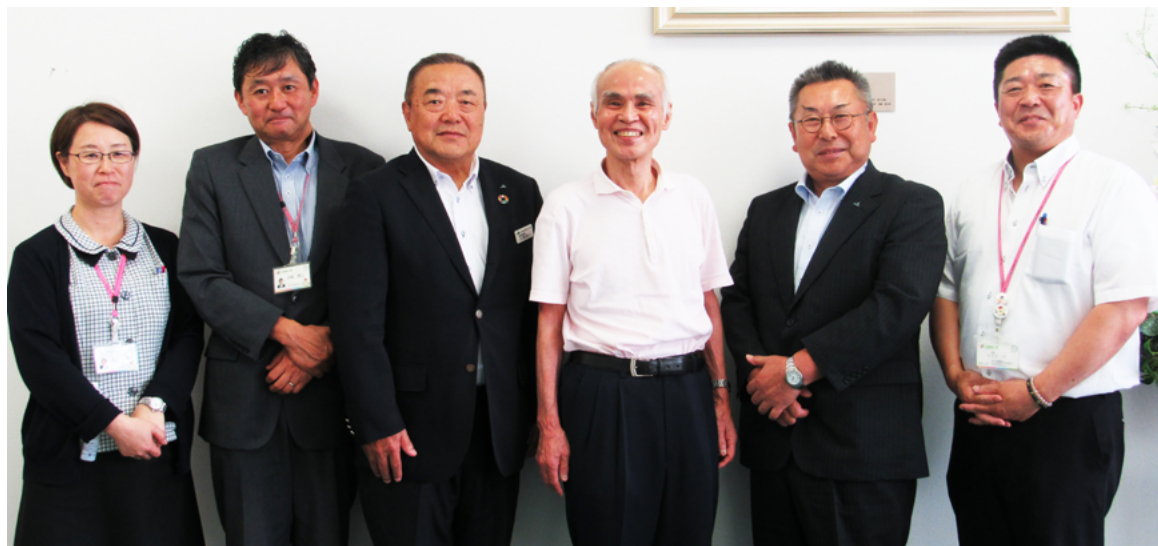
維新150年の記念行事として計画されたのですが、行政同士がつながるのはちょっとむずかしかった。反対者もいましたからね。その点ではJ Aのほうが動きやすかった。萩市にはこの交流に熱心な市長とお医者さんがいました。

現在は直売所の交流、女性部の交流を行っています。萩市には相島という離れ小島があって、そこが山口県最大のスイカ産地となっています。先日、そのスイカをたくさん送っていただきました。

J Aよこすか葉山との姉妹提携も2018(平成30)年に始まりました。最初は直売所同士の交流からスタートしましたが、現在は災害協定を結ぶまでに至っています。海と山、都市と農山村、というそれぞれの地域特性を活かしての姉妹提携です。

少し前ですが、組合長以下、役員のみなさんがこちらに来られまして、カボチャをいただきました。今年の役員改選で専務が交代したということで、あいさつを兼ねて来訪されました。

(取材／2024年7月3日)



今回の取材にご対応いただいたJ Aのみなさん。左から経済福祉部介護福祉課・花積奈代課長、経済福祉部・宮崎博之部長、小林利一常務理事、石田氏、原組合長、営農部園芸課・安達一幸課長

コメナルド画伯が行く！ よつばのステキを発見！ですぞ♪



広報誌『よつば』の連載企画「コメナルド画伯が行く！」は、各地の支店・営農経済センター職員が管内の企業・団体を訪問し、その紹介記事(写真付き)を書くという趣向である。

コメナルドとは、コメどころの会津にふさわしく「米成土」を表している。本文でも記したように、その訪問先がすばらしい。自然、人、建物と設備、特産品のそれぞれが、会津の「風景」を醸し出している。この1年間の訪問先は次のとおりである。



広報誌で好評を博している「コメナルド画伯が行く！」コーナー。写真を多く使うなど、親しみのある記事づくりを心がけている

- 南会津町田島編……会津田島祇園会館
- 会津美里町本郷編……会津本郷陶磁器会館
- 喜多方市編……小原酒造(株)、(資)喜多の華酒造場
- 南会津町館岩編……道の駅「番屋」、そば処「曲家」
- 会津若松市(河東)編……(株)羅羅屋 会津若松工場
- 会津坂下町編……会津中央乳業(株)
- 只見町編……ただみ・モノとくらしのミュージアム
- 喜多方市編……染織工房「れんが」
- 会津若松市編…造花体験教室「プチ・ボヌール」
- 柳津町編…本格ドイツパン教室 シャコ・デ・パン

職員の訪問記でも十分に面白いが、職員だけの訪問記で終わらせてはもったいないとも思った。1つの提案であるが、JAが地域の企業・団体とふれあう貴重な機会なので、組合員組織のリーダー(非常勤理事を含む)の訪問記に拡張していったらどうか。

いうならば、広報誌を組合員(組合員組織)の教育・学習活動に活用するというアイデアである。取材というか対談は、組合員組織のリーダーが行い、執筆と写真撮影は職員が担当すればよい。そうすればJAと外部組織とのネットワーキングに大いに役立つであろう。